

紀南教会瓦版

発行元 紀南教会瓦版編集委員
紀南教会瓦版編集委員
和歌山県田辺市
下屋敷町80
TEL/EAX
0739-25-1191
E-mail
kinan-ch@beach.ocn.ne.jp
H・P
http://www.kinan-ch.org/

65年目の真実

レモン宣教師の召天から二十七年。その先生が死を目前にして、病床で半年程を明け、様々な思い出話をしたものを、お粗末な訳ながら召天一〇年後によりやく一冊の本”ピアニンの宝物”として、まとめさせてもらった。その中の一つに、レモン先生が日本で出会った最も心に残った四人の青年達のこと書かれている

本が出来た時点で、私は国仲さんのご家族にも是非読んで頂きたく、沖繩・宮古の関係者に国仲さんのことを調べてもらった。残念ながら、国仲さんは若くして亡くなられ、奥様も亡くなり、お子さんはいらっしゃらなかったこと位しか、分からなかった。

ところが、それから一七年、昨年一月中旬、NHKの心の時代に平良修牧師（沖繩・宮古島伝道所）が出版され、その中で国仲寛一牧師が自分の人生に最も大きな影響を与えた人として紹介された。レモン先生の詩いた種が、国仲さんの中で育ち、国仲さんの詩いた種が平良さんに受け継がれていた。国仲さんが確かに一粒の麦となっていたんだ、ということに涙が出るほど感動を覚えた。

このことがあって、私は国仲さんの足跡を偲びたい思いにかられ、主人と共に宮古島を訪ね、平良キリストの教会の伊志嶺勳牧師や平良修牧師にお目にかかることが出来た。国仲さんや奥様の益子さんが書き残していた文章と出会い、知らなかつた事実の断片を知ることが許された。それは自分の頭で考えていた姿とは違っていた。

以下は国仲寛一さんが一九四六年三月六日、四〇歳で召天し、以来六五年もの年月を経て知った真実。そのことを手短かに記す。

早稲田在学中に英語を学びたいと、東京馬橋教会での聖書研究会へ通い出したのが、レモン宣教師との出会いであった。そこで信仰を持つ。卒業後教員となった国仲さん。奥様との出会いは、同じ小学校に奉職中のこと。国仲さんは仲間にも優しく親切。生徒にも親しまれ、絶えず笑顔で、ユーモアもあり、よく運動もしていた。益子さんが日直をしていた三月のある寒い

日、音楽室でピアノを弾いていた処に、火鉢を抱えた国仲さんが入ってきた。「寒いから、暖まりなさい」と。そして、左目を患っていた暗い気持ちになることの多かつた益子さんに「僕があなたの杖になってあげましよう！」とプロポーズ。その後一緒に教会へ通い、結婚へと導かれた。国仲さんは夜間の日大に通い、国文科で日本精神の研究。賀川豊彦先生の講演で大いに触発され、先生と個人的に交わりを持つ中で、南静園（ハセン病療養所）の実情を聞かされ「弱く虚げられてる者達によき隣人になろう」と、弱き者への愛情をたざらせた。終戦後の宮古の混乱ぶりを従兄から聞き、時機到来と喜び、一九四六年十一月、アメリカ軍の許可を得、教文館から聖書五十冊を買ひ求め、軍艦に乗って一週間余りかかり宮古島に到着。

戦後すぐ、大学の助教授

へ、音楽室でピアノを弾いていた処に、火鉢を抱えた国仲さんが入ってきた。「寒いから、暖まりなさい」と。そして、左目を患っていた暗い気持ちになることの多かつた益子さんに「僕があなたの杖になってあげましよう！」とプロポーズ。その後一緒に教会へ通い、結婚へと導かれた。国仲さんは夜間の日大に通い、国文科で日本精神の研究。賀川豊彦先生の講演で大いに触発され、先生と個人的に交わりを持つ中で、南静園（ハセン病療養所）の実情を聞かされ「弱く虚げられてる者達によき隣人になろう」と、弱き者への愛情をたざらせた。終戦後の宮古の混乱ぶりを従兄から聞き、時機到来と喜び、一九四六年十一月、アメリカ軍の許可を得、教文館から聖書五十冊を買ひ求め、軍艦に乗って一週間余りかかり宮古島に到着。

戦後すぐ、大学の助教授



（鼓）

三つの休息

紀南教会牧師 上山耕司

昨年秋、精神的なストレスや年齢的なことも重なり、睡眠が十分取れなくなつた。それが何日も続き、潜在的に持っていた高血圧の症状を発症した。薬で何とか下げ、現在は安定しているが、睡眠の大切さと共にそれを妨げるストレスの影響の大きさを感じた。

人間の休息には毎日の夜の睡眠、二つ目は一週間の日曜日の休日、そして三つ目は死という永遠の休息がある。まず、夜の睡眠だが、神は創造の第一日目に光を造り、光と闇を分けられた。

光を昼、闇を夜と呼ばれた。昼を労働の時、夜を休息、睡眠の時とされた。夜の目的は心身の休息である。ところが心配なことには現在が長時間労働、インターネット、ゲームなどで大人も、子供も睡眠が不十分。人間は睡眠中に二時間から三時間の間隔で下垂体前葉から成長ホルモンを分泌する。したがって、子供の成長や創傷治癒、肌の新陳代謝は睡眠時に特に促進される。その他、免疫力の向上などがある。短期的には睡眠は栄養の摂取よりも重要である。ネズミの実験では、完全に睡眠を遮断した場合、約一・二週間で死亡する

が、これは食物を与えなかつた場合よりも短い。人間の場合でも、眠らない状態を続けると思考能力が落ち、妄想や幻覚が出て、相当期間、強制的に、眠らない状態にされると恐らく死んでしまうだろうと言われている。

また、一週間に一度の休みも大切な休息の時だ。神は全部閉店してしまう。但し教会ではキリストの復活を記念して日曜日を礼拝の日と定め、安息の日として聖別している。

そして三つ目は死による永遠の休息である。私達の命は長くても百年、百年生きるということは大変なことである。多くの人は六〇～七〇歳になると長年の使用によって全身の機能が衰え、あちこちに支障を来し、また心身共に疲れを覚えるものである。死はこの世における人生の終わり、休息、安息を意味する。死の別離はつらいものであるが、もし、死がなければ、あちこちに支障を来し、エンストしながら生き続けることはそれ以上につらいことである。神が与えて下さる最後の休息の時のためにも、二つの休息を大切に、神の祝福を受けたいものである。



今夏も自然災害の多い季でした。心よりお見舞い申し上げます。次回四三号は、秋の色が濃くなった十一月三〇日の予定です。皆様様の平安を祈りつつ。

- 紀南キリスト教会集会案内
 - 教会学校（日）
 - 午前10時30分
 - 礼拝（日）
 - 午前10時30分
 - 聖書と讃美（火）
 - 午前10時
 - 聖書の学び（火）
 - 午後6時30分
 - 祈禱会（木）
 - 午後7時30分
- ※どの集会にでも、お越しでしたら、牧師まで、ご連絡下さい。